

大阪情報コンピュータ専門学校 授業シラバス (2021年度)

専門分野区分	デザイン・作画技法	科目名	デッサンⅢ					科目コード	D0510A1	
配当期	前期	授業実施形態	通常					単位数	4 単位	
担当教員名	畑 卓也	履修グループ	2L(DG/DM/DW/MA)					授業方法	演習	
実務経験の内容	芸術大学美術学科絵画専攻を卒業後現在までの二十数年間に、絵画・版画・造形などの作品制作と、イラストやデザインなどの仕事を通して得た経験を活かして、人間の視覚や知覚のしくみなどにも触れながら、基礎となるデッサンスケッチ表現技術習得の指導を行う									
学習一般目標	更なる構成力と表現力を身につける 複数の形状・質感・色の異なるモチーフを捉え表現できるようになる。 人物・動物の骨格をふまえ、かたちや動作を表現できるようになる 透視法によって、屋内外の空間を捉え表現できるようになる。									
授業の概要および学習上の助言	受け取る情報の大半は視覚を通して取り込まれます。物を観る眼(モノを把握し捉える能力・観察力)を身につけることで、必然的に描写力や表現力が身についていきます。観ることを忘れずに取り組んで下さい。積み重ねることではか身についていきません。									
教科書および参考書	『パーフェクトマスター デッサン・静物/質感表現の描き方』誠文堂新光社 『アーティストのための美術解剖学』マル社 その他、必要に応じてプリント配布。									
履修に必要な予備知識や技能										
使用機器	各自用意するものとして、鉛筆(2H~4B)、練消しゴム、カッターナイフ、デッサンスケール、クリップ 水彩道具一式(水彩絵の具、筆、パレット。水入れ、雑巾) ※一括購入分含む									
使用ソフト										
学習到達目標	学部DP(番号表記)	学生が到達すべき行動目標								
	1	空間表現の基本、遠近法の理解と把握し、陰影法により立体感を表現できる。								
	1	鉛筆を使った陰影表現により、立体感を表現できる。								
	1	骨格や構造を理解し、人物表現できる								
	1	水彩や色鉛筆等の画材の使用法を理解し、表現方法や色彩の効果について工夫しながら表現できる								
5	講義と実習において、意欲を持って取り組むことができる									
達成度評価	評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	学部DP	1.知識・理解					80			80
		2.思考・判断								
		3.態度								
		4.技能・表現								
		5.関心・意欲							20	20
総合評価割合						80		20	100	

評価の要点

評価方法	評価の実施方法と注意点
試験	
小テスト	
レポート	
成果発表(口頭・実技)	
作品	授業内制作作品と授業外制作作品(宿題)に対する評価
ポートフォリオ	
その他	授業に対する姿勢や課題に対する取り組み、出席状況

授業明細表

授業回数	学習内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)
第1回	復習「立方体」「円柱」 視点と対象の関係をしっかりと把握した上で、形をとらえる	講義・実習	デッサン I、II の復習
第2回	「ブロックとロープ(布、木、ボールなど)」 全体のボリュームと細部の関係をしっかりと捉え、大きな空間を表現する	講義・実習	
第3回	「ブロックとロープ(布、木、ボールなど)」 色味や質感もあわせ表現する	講義・実習	
第4回	「書籍とガラス」 矩形と文字模様、ガラスの質感表現	講義・実習	
第5回	「書籍とガラス」	講義・実習	
第6回	「風景スケッチ」	講義・実習	
第7回	「紙風船・ほか」着色 着色。色の表現	講義・実習	
第8回	「紙風船・ほか」着色	講義・実習	
第9回	「写真模写」 各自人物写真を用意	講義・実習	
第10回	「写真模写」	講義・実習	
第11回	「人物スケッチ・クロッキー」 人体骨格の把握と理解。 友達を描く。	講義・実習	
第12回	「人物デッサン」 モデル	講義・実習	
第13回	「石膏像」「組モチーフ」 石膏:胸像・頭部、手や足、頭蓋骨 静物:組合せ	講義・実習	
第14回	「石膏像」「組モチーフ」	講義・実習	

